

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7206040号
(P7206040)

(45)発行日 令和5年1月17日(2023.1.17)

(24)登録日 令和5年1月6日(2023.1.6)

(51)国際特許分類

F I

E 0 3 C 1/18 (2006.01)

E 0 3 C 1/18

請求項の数 4 (全10頁)

(21)出願番号	特願2017-251176(P2017-251176)	(73)特許権者	504163612
(22)出願日	平成29年12月27日(2017.12.27)		株式会社 L I X I L
(65)公開番号	特開2019-116775(P2019-116775 A)		東京都品川区西品川一丁目1番1号 大崎ガーデンタワー
(43)公開日	令和1年7月18日(2019.7.18)	(74)代理人	100106909
審査請求日	令和2年11月26日(2020.11.26)		弁理士 棚井 澄雄
		(74)代理人	100094400
			鈴木 三義
		(74)代理人	100161506
			弁理士 川淵 健一
		(74)代理人	100169764
			弁理士 清水 雄一郎
		(72)発明者	森 創
			東京都江東区大島二丁目1番1号 株式会社 L I X I L 内
最終頁に続く			

(54)【発明の名称】 キッチン用シンク及びキッチンユニット

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

底部と、
前記底部の外縁部に立設される側壁と、
前記底部の奥側に平面視外方に向かって延出する延出部と、
前記延出部に設けられる排水口と、
前記排水口に連続して設けられ、前記底部と前記側壁との境界部分に前記底部よりも下方に窪んで形成される誘導溝と備え、
前記誘導溝は、前記排水口に近接する前記側壁と前記底部との境界のみに沿って前記底部の全長に亘って延設されており、
前記底部が前記排水口に向かって低くなるように傾斜しており、
前記誘導溝の最深部が、前記誘導溝の延設方向に直線状に延びており、
前記排水口が前記誘導溝より前記延出部側に設けられているキッチン用シンク。

【請求項2】

前記誘導溝は、前記誘導溝の延設方向に直交する縦断面形状が下方に突出する曲面形状で形成されている

請求項1に記載のキッチン用シンク。

【請求項3】

前記誘導溝の最深部が前記誘導溝の延設方向の両端部から前記排水口に向かって深くなるように傾斜している

請求項 2 に記載のキッチン用シンク。

【請求項 4】

請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載のキッチン用シンクと、
前記シンクの下方に設けられる排水路と、
前記シンクが取り付けられる天板と、
を備えるキッチンユニット。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、キッチン用シンク及びキッチンユニットに関する。

10

【背景技術】

【0002】

一般に、シンクは排水口を備え、シンクに併設された水栓の蛇口から吐出された水が排水口に向かって案内されるようにシンクの底面が形成されている（特許文献 1）。調理台に設けられるシンクは、食器や食材の洗浄時などに使用される。そのため、シンクの使用時、水に加えて食材片、食品の包装片、洗剤の泡等の塵がシンク内周面に付着する。このような塵は、蛇口からの吐水等、シンクの上方から水を流し入れ、その水流により排水口に向けて流し、排水口に設けられた塵受け部に集められたうえで廃棄することが多い。

【先行技術文献】

【特許文献】

20

【0003】

【文献】特許第 6 0 8 0 8 0 8 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

従来のシンクでは、シンク内の塵を排水口側に誘導するために蛇口からの吐水等の水を流してもシンク上に塵が残留する場合が多く、全ての塵を流すために手間を要していた。また、シンク内に付着した廃棄物を流すために多くの水が必要となっていた。

【0005】

上記事情を踏まえ、本発明は、塵がシンク内に残留することを防いで排水口に向けて円滑に誘導できるキッチン用シンク及びキッチンユニットを提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係るキッチン用シンクは、底部と、前記底部の外縁部に立設される側壁と、前記底部の奥側に平面視外方に向かって延出する延出部と、前記延出部に設けられる排水口と、前記排水口に連続して設けられ、前記底部と前記側壁との境界部分に前記底部よりも下方に窪んで形成される誘導溝と備え、前記誘導溝は、前記排水口に近接する前記側壁と前記底部との境界のみに沿って前記底部の全長に亘って延設されており、前記底部が前記排水口に向かって低くなるように傾斜しており、前記誘導溝の最深部が、前記誘導溝の延設方向に直線状に延びており、前記排水口が前記誘導溝より前記延出部側に設けられている。

40

【0007】

この発明によれば、底部よりも下方に窪んで形成される誘導溝を備えるため、シンク内を流れる水がシンクの底部よりも下方の誘導溝に流入し、水と共にシンク内の塵を円滑に排水口に誘導できる。また、誘導溝が底部よりも下方に窪んで形成されているため、誘導溝内に流入した塵がシンクの底部側に逆流することを防ぐことができる。したがって、塵がシンク内に滞留することを防ぎ排水口に向けて円滑に誘導できるシンクを提供できる。この発明によれば、底部の一部に平面視外方に向かって延出する延出部を備え、排水口が誘導溝より延出部側に設けられることにより、底部の面積を広く確保でき、シンク内における物品載置スペースを広く確保できる。

50

【 0 0 0 8 】

本発明に係るキッチン用シンクでは、前記誘導溝は、前記誘導溝の延設方向に直交する縦断面形状が下方に突出する曲面形状で形成されていてもよい。

【 0 0 0 9 】

この発明によれば、誘導溝が下方に突出する曲面形状で形成されているため、誘導溝の最も深い部分となる最深部を誘導溝の延設方向に沿って細く形成できる。この結果、誘導溝の最深部に塵が誘導されやすくなり、塵を円滑に誘導できる。また、底面が平面の溝に比べて誘導溝内の水位が早く上昇するため、少量の水でも塵を流すことができる。

【 0 0 1 0 】

本発明に係るキッチン用シンクでは、前記誘導溝の最深部が前記誘導溝の延設方向の両端部から前記排水口に向かって深くなるように傾斜していてもよい。

10

【 0 0 1 1 】

この発明によれば、誘導溝の最も深い部分となる最深部が誘導溝の延設方向の両端部から排水口に向かって深くなるように傾斜することにより、誘導溝の最深部に誘導された塵を排水口に誘導する流路が形成され、円滑に塵を排水口に誘導できる。

【 0 0 1 4 】

本発明に係るキッチンユニットは、上記キッチン用シンクと、前記シンクの下方に設けられる排水路と、前記シンクが取り付けられる天板と、を備える。

【 0 0 1 5 】

この発明によれば、塵がシンク内に残留することを防いで排水口に向けて円滑に誘導できるシンクを備えるキッチンユニットを提供できる。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 6 】

本発明によれば、塵がシンク内に残留することを防いで排水口に向けて円滑に誘導できるキッチン用シンク及びキッチンユニットを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明の一実施形態に係るシンクを備えるキッチンユニットの一例を示す斜視図である。

【図 2】本発明の一実施形態に係るシンクを上方から見た斜視図である。

30

【図 3】本発明の一実施形態に係るシンクの平面図である。

【図 4】本発明の一実施形態に係るシンクの底面の形状を示す模式図である。

【図 5】図 4 の V - V 線における断面図である。

【図 6】図 4 の V I - V I 線における断面図である。

【図 7】図 4 の V I I - V I I 線における断面図である。

【図 8】図 1 の実施形態に係るシンクの変形例を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 8 】

以下、本発明の一実施形態に係るシンクについて図面を用いて説明する。

図 1 は本実施形態に係るシンク 1 の一例として、キッチンユニット 1 0 0 に取り付けられるシンク 1 を示す斜視図である。図 2 は、図 1 のシンク 1 を上方から見た斜視図である。図 3 は、本実施形態に係るシンク 1 の平面図である。図 4 は本実施形態に係るシンク 1 の底部及び誘導溝の形状を示す模式図である。図 5 は、図 4 における V - V 断面図である。図 6 は、図 4 における V I - V I 断面図である。

40

【 0 0 1 9 】

図 1 及び図 2 に示すように、キッチンユニット 1 0 0 は、支持体となるキッチンキャビネット 1 0 2 と、キッチンキャビネット 1 0 2 上に設けられた天板 1 0 1 と、シンク 1 と、シンク 1 に取り付けられる水栓 1 0 3 (図 1 では図示省略) とを備える。キッチンユニット 1 0 0 には、この他、抽斗、棚板、扉等を備える収納部 1 0 4 や加熱器具 (図示省略) が適宜設けられる。シンク 1 は、天板 1 0 1 に形成された開口 (不図示) に一部が挿入

50

された状態で天板 1 0 1 に支持され、シンク 1 と天板 1 0 1 とが当接する部分に防水処理が施されて天板 1 0 1 に固定されている。

【 0 0 2 0 】

以下の説明において、キッチンユニット 1 0 0 を使用する使用者がシンク 1 と向き合ったときの左右方向を幅方向と称する。キッチンユニット 1 0 0 が設置される床面 F に直交する方向を上下方向と適宜称する。また、上記幅方向及び上下方向と直交する方向を奥行方向と称し、使用者側を手前側、反対側を奥側と称する。

【 0 0 2 1 】

図 2 及び図 3 に示すように、シンク 1 は、底部 2 と、側壁 3 1 , 3 2 , 3 3 , 3 4 と、排水口 4 と、誘導溝 5 , 5 3 と、上縁部 6 とを備える。シンク 1 は、ステンレス、人造大理石等からなり一体成形されている。シンク 1 は、底部 2 と、底部 2 の外縁部に立設される複数の側壁 3 1 , 3 2 , 3 3 , 3 4 とにより、ボウル状の凹部が形成されている。本実施形態では、底部 2 が平面視において幅方向に長い略長方形である例を示す。

10

【 0 0 2 2 】

シンク 1 の上部には、上縁部 6 が設けられている。上縁部 6 は、シンク 1 の上端部に設けられる平面視略矩形の枠部である。上縁部 6 は、側壁 3 1 , 3 2 , 3 3 , 3 4 , 3 5 の上端部からそれぞれ外方に向かって水平方向に延びるように連続して設けられている。上縁部 6 には水平面 6 1 (図 5 参照) を有し、水平面 6 1 が天板 1 0 1 に当接されて天板 1 0 1 にシンク 1 が支持される。

【 0 0 2 3 】

底部 2 の奥側の幅方向中央部の一部には奥側 (平面視外方) に延出する延出部 2 1 を備え、延出部 2 1 に排水口 4 が形成されている。つまり、排水口 4 は、底部 2 の奥側であって、誘導溝 5 より延出部 2 1 側に設けられている。排水口 4 は、シンク 1 の下方に設けられた排水路 (不図示) に接続されている。

20

【 0 0 2 4 】

図 4 に、シンク 1 の底部 2 及び誘導溝 5 , 5 3 の高さ方向の傾斜分布を等高線で示す。図 4 から図 6 に示すように、底部 2 は、手前側の幅方向端部から排水口 4 に向かって次第に高さが低くなるように傾斜している。本実施形態では、排水口 4 が奥側の幅方向中央部に設けられている。そのため、図 4 に等高線で示すように、底部 2 は手前側の幅方向端部から奥側の幅方向中央部に向かって深くなるように傾斜している。第 1 誘導溝 5 , 5 は、延設方向に延びる最深部 5 2 が幅方向両端部から中央部に向かって深くなるように傾斜している。

30

【 0 0 2 5 】

側壁 3 1 , 3 2 , 3 3 , 3 4 , 3 5 は、奥側に位置する奥側壁 3 1 , 3 4 と、底部 2 の幅方向端部から立設される右側壁 3 2 及び左側壁 3 3 と、手前側に位置する手前側壁 3 5 とからなる。奥側壁 3 1 , 3 4 は、幅方向両側に位置する 2 つの第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 と、2 つの第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 の間に位置する第 2 奥側壁 3 4 とからなる。第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 は、底部 2 の奥側端部 2 3 の幅方向両側に立設されている。第 2 奥側壁 3 4 は、2 つの第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 の間に位置し、延出部 2 1 の外縁部から立設されている。第 2 奥側壁 3 4 は、第 1 壁 3 4 1 と第 2 壁 3 4 2 , 3 4 3 とにより平面視 U 字状の 3 面からなる壁部である。第 1 壁 3 4 1 は、奥側に位置し、幅方向に延設されている。第 2 壁 3 4 2 は、第 1 壁 3 4 1 の左右端部と幅方向両側の第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 とを接続するように設けられている。

40

【 0 0 2 6 】

図 6 に示すように、延出部 2 1 の下部に凹部 2 2 を有する。凹部 2 2 は、底部 2 よりも深さが深く、凹部 2 2 の下端部に排水口 4 が形成されている。

【 0 0 2 7 】

誘導溝 5 , 5 3 は、底部 2 と第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 及び第 2 奥側壁 3 4 との境界部分に底部 2 の奥側端部 2 3 に沿って延設されている。つまり、誘導溝 5 , 5 3 は幅方向に沿って延設されている。誘導溝 5 , 5 3 は、第 1 誘導溝 5 と第 2 誘導溝 5 3 とを備える。誘導

50

溝 5 , 5 3 は、幅方向の両端側に第 1 誘導溝 5 , 5 が位置し、第 1 誘導溝 5 , 5 の間に第 2 誘導溝 5 3 が位置する。誘導溝 5 , 5 3 は、シンク 1 の底部 2 の幅方向の全長に亘って形成されており、第 1 誘導溝 5 , 5 の幅方向の外側端部、すなわち、誘導溝 5 , 5 3 の延設方向（幅方向）の両端部 5 1 , 5 1 は右側壁 3 2 及び左側壁 3 3 の下端部に位置する。誘導溝 5 , 5 3 は、排水口 4 に連続して設けられている。誘導溝 5 , 5 3 は、平面視において、少なくとも排水口 4 が近接する側壁である奥側壁 3 1 , 3 4 の全長に亘って形成されている。

【 0 0 2 8 】

図 5 及び図 6 に示すように、誘導溝 5 , 5 3 は底部 2 の上面よりも下方に窪んで形成されている。第 1 誘導溝 5 , 5 は、延設方向に直交する縦断面形状が下方に突出する曲面形状となるように形成されている。図 7 は、図 4 の V I I - V I I 線における縦断面図である。図 7 には、底部 2 の奥側端部 2 3 の高さを点線で示している。図 4 及び図 7 に示すように、第 1 誘導溝 5 , 5 の最深部 5 2 , 5 2 が第 1 誘導溝 5 , 5 の延設方向の両端部 5 1 , 5 1 から排水口 4 に向かって次第に深くなるように傾斜している。

【 0 0 2 9 】

第 2 誘導溝 5 3 は、凹部 2 2 と底部 2 の奥側端部 2 3 との間及び延設部 2 1 内に形成されている。第 2 誘導溝 5 3 は、凹部 2 2 の手前側上端部と底部 2 の奥側端部 2 3 との間を接続し、底部 2 の上面よりも下方に窪んで形成されている。第 2 誘導溝 5 3 は、第 2 奥側壁 3 4 と凹部 2 2 の上端部とを接続している。また、第 2 誘導溝 5 3 は、第 1 誘導溝 5 よりも下方に窪んで形成されている。

【 0 0 3 0 】

第 2 壁 3 4 2 , 3 4 3 の上端から幅方向外側にそれぞれ平面状の奥側上面部 8 , 8 が形成されている。奥側上面部 8 , 8 は、各第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 の上端部と、第 2 奥側壁 3 4 の第 2 壁 3 4 2 , 3 4 3 と、上縁部 6 とに囲まれた部分に形成されている。奥側上面部 8 , 8 は、奥側から第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 に向かって下方に僅かに傾斜している。本実施形態では、幅方向左側の奥側上面部 8 には上下方向に貫通する水栓孔が形成されており、水栓孔に水栓 1 0 3 が挿通されて、水栓 1 0 3 が設けられている。水栓 1 0 3 は、シンク 1 の下方に設けられた不図示の配水管と接続されている。

【 0 0 3 1 】

図 2 に示すように、第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 と第 2 奥側壁 3 4 との境界となる部分に仕切板 7 が係止されて架設されている。図 1、図 3、図 4、図 6、図 7 では仕切板 7 の図示を省略している。仕切板 7 は略平板状の部材であり、第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 より奥側に設けられた延出部 2 1 とシンク 1 の手前側の領域とを仕切り、排水口 4 の目隠しとして機能する。図 2 に示すように、仕切板 7 が第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 と面一となるようにシンク 1 に取り付けられるため、外観意匠上、仕切板 7 と第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 との一体感が得られる。仕切板 7 の下端は、第 2 誘導溝 5 3 の手前側端部よりも奥側に位置している。この構成により、第 1 誘導溝 5 , 5 に誘導された水や塵が流れ込む開口が確保されている。なお、仕切板 7 は必須の構成ではなく、仕切板 7 に代えて、食器用洗剤やスポンジなどの物品を収容するラックを左右の上面部間に架設して、スペースを有効活用する構成であってもよい。また、仕切板 7 に加えて、排水口 4 の上方であって仕切板 7 と第 2 奥側壁 3 4 とで

【 0 0 3 2 】

次に、本実施形態に係るシンク 1 の作用について説明する。

従来のシンクは、底部と側壁部との間に底部よりも下方に窪む溝が形成されておらず、底部の縁部から側壁部が起立するように形成されている。そのため、シンク内に流入した水が底部の傾斜に沿って下方に流れ、底部の下方端側に起立する側壁部に達すると、側壁部により跳ね返されて底部側に逆流する流れが発生する。その結果、水と共に流れる塵も側壁部により跳ね返されて底部側に戻される。跳ね返された水とともに逆流した塵のうち、水よりも重い塵が底部上に残ることがある。そのため、使用者は大量の水を流す必要があり、また、シャワー水栓を塵の上流側に配置して吐水するなどを行う必要があり、手間

10

20

30

40

50

がかかっていた。

【 0 0 3 3 】

本実施形態に係るシンク 1 は、奥側に排水口 4 が設けられているため、底部 2 の奥側縁部側に向かって下方に傾斜している。そのため、シンク 1 内に水が流入すると、底部 2 上において水が奥側縁部側に向かって流れる。底部 2 の奥側縁部側には底部 2 よりも下方に窪む第 1 誘導溝 5 , 5 が形成されているため、底部 2 上を下方に向かって流れる水は第 1 誘導溝 5 , 5 に流入する。このとき、底部 2 側から流入した水は、第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 に当たり手前側へ戻される流れが発生する。しかし、第 1 誘導溝 5 , 5 は、底部 2 よりも下方に窪み、かつ、最深部 5 2 , 5 2 が第 1 誘導溝 5 , 5 の延設方向に直線状に位置する。この結果、第 1 奥側壁 3 1 , 3 1 により跳ね返された水は第 1 誘導溝 5 , 5 から底部 2 側に移動せずにとどまり、最深部 5 2 , 5 2 の傾斜に沿って排水口 4 側に流れるため、第 1 誘導溝 5 , 5 に流入した水が底部 2 上に逆流し難い。また、第 1 誘導溝 5 , 5 が下方に窪む円弧形状を有するため、水が最深部 5 2 , 5 2 近傍に溜まりやすく、少量の水でも塵を流すために必要な水が速やかに確保できる。第 1 誘導溝 5 内に溜まった水は、最深部 5 2 , 5 2 の傾斜に沿って第 2 誘導溝 5 3 及び凹部 2 2 側に流れ、円滑に排水口 4 まで誘導される。

10

【 0 0 3 4 】

本実施形態に係るシンク 1 によれば、底部 2 よりも下方に窪んで形成される誘導溝 5 を備えるため、シンク 1 内を流れる水が底部 2 よりも下方の誘導溝 5 , 5 3 に流入し、水と共にシンク 1 内の塵を円滑に排水口 4 に誘導できる。また、誘導溝 5 , 5 3 が底部 2 よりも下方に窪んで形成されているため、誘導溝 5 , 5 3 内に流入した塵がシンク 1 の底部 2 側に逆流することを防ぐことができる。したがって、塵がシンク 1 内に滞留することを防いで排水口 4 に向けて円滑に誘導できるシンク 1 を提供できる。

20

【 0 0 3 5 】

本実施形態に係るシンク 1 によれば、第 1 誘導溝 5 , 5 が下方に突出する曲面形状で形成されているため、第 1 誘導溝 5 , 5 の最も深い部分を第 1 誘導溝 5 , 5 の延設方向に沿って細く形成できる。この結果、第 1 誘導溝 5 , 5 の最深部 5 2 , 5 2 に塵が誘導されやすくなり、塵を円滑に誘導できる。また、底部が平面の溝に比べて、第 1 誘導溝 5 , 5 内の水位が早く上昇するため、少量の水でも塵を流すことができる。

【 0 0 3 6 】

30

本実施形態に係るシンク 1 によれば、第 1 誘導溝 5 , 5 の最深部 5 2 , 5 2 が第 1 誘導溝 5 , 5 の延設方向の両端部から排水口 4 に向かって深くなるように傾斜することにより、第 1 誘導溝 5 , 5 の最深部 5 2 , 5 2 に誘導された塵を排水口 4 に誘導する流路が形成され、円滑に塵を排水口 4 に誘導できる。

【 0 0 3 7 】

本実施形態に係るシンク 1 によれば、底部 2 の一部に奥側（平面視外方）に向かって延出する延出部 2 1 を備え、排水口 4 が誘導溝 5 , 5 3 より延出部側（奥側）に設けられることにより、底部 2 の面積を広く確保でき、シンク 1 内における物品載置スペースを広く確保できる。

【 0 0 3 8 】

40

本実施形態によれば、塵がシンク 1 内に残留することを防いで排水口 4 に向けて円滑に誘導できるシンク 1 を備えるキッチンユニットを提供できる。

【 0 0 3 9 】

上記実施形態では、底部 2 に延出部 2 1 が設けられ、排水口 4 が第 1 誘導溝 5 , 5 よりも奥側の延出部 2 1 に位置する例を示したが、延出部 2 1 は必須の構成ではない。また、排水口 4 が誘導溝 5 , 5 3 よりも奥側に位置する構成は必須ではない。例えば、図 8 に示す変形例のシンク 1 A のように、底部 2 A に延出部を備えず、奥側壁 3 1 A が一平面からなり、第 1 誘導溝 5 , 5 に重畳するように連続して排水口 4 が形成されていてもよい。

【 0 0 4 0 】

上記実施形態では、排水口 4 が幅方向中央部に設けられる例を示したが、排水口の位置

50

はこれに限定されず、誘導溝と連続して設けられていればよい。例えば、底部 2 の幅方向のいずれか一方の端部寄りに設けられていてもよい。

【 0 0 4 1 】

上記実施形態では、誘導溝 5 , 5 3 が底部 2 の長辺方向に沿って全長に亘って形成される例を示したが、この構成に限定されず、誘導溝は、排水口 4 に近接する側壁と底部との境界に形成されていればよい。例えば、排水口 4 が底部 2 の短辺側に形成されている場合、誘導溝が底部 2 の短辺方向の右側壁 3 2 あるいは左側壁 3 3 の全長に設けられていてもよい。

【 0 0 4 2 】

上記実施形態では、底部が平面視略長方形形状である例を示したが、底部の形状は特に限定されない。例えば、幅方向と奥行方向の寸法が略等しい略正方形形状、円形、楕円形、半円形、半楕円形、扇形などであってもよい。なお、底部が円形である場合、排水口が近接する側壁の全長とは、底部の寸法が最大となる直線（直径）上に位置する部分から、180度の半円の円弧形状の部分と言い、少なくともこの円弧形状部分の側壁と底部との境界部に誘導溝が形成されていればよい。底部が楕円形状である場合は、底部の長辺あるいは短辺上に位置する部分から外周の半分の縁部と、その縁部に隣接する側壁との境界に誘導溝が形成されていればよい。

【 0 0 4 3 】

本実施形態では、延出部 2 1 の凹部 2 2 と第 1 誘導溝 5 との間に第 2 誘導溝 5 3 が形成され、誘導溝が第 1 誘導溝 5 と第 2 誘導溝 5 3 とからなる例を示したが、第 2 誘導溝 5 3 は必須の構成ではない。例えば、第 1 誘導溝 5 から排水口 4 に向かって第 1 誘導溝 5 の深さが次第に深くなるように傾斜する構成であってもよい。

【 0 0 4 4 】

以上、本発明の実施形態について図面を参照して詳述したが、具体的な構成はこの実施形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等も含まれる。

また、上述の実施形態及び各変形例において示した構成要素は適宜に組み合わせて構成することが可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 5 】

1 , 1 A シンク

2 , 2 A 底部

4 排水口

5 第 1 誘導溝（誘導溝）

3 1 第 1 奥側壁（側壁）

3 4 第 2 奥側壁（即壁）

5 3 第 2 誘導溝（誘導溝）

1 0 0 キッチンユニット

1 0 1 天板

10

20

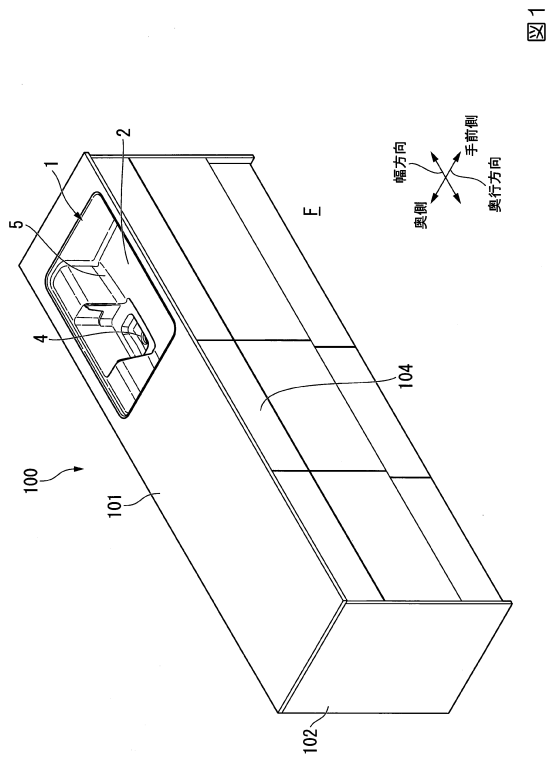
30

40

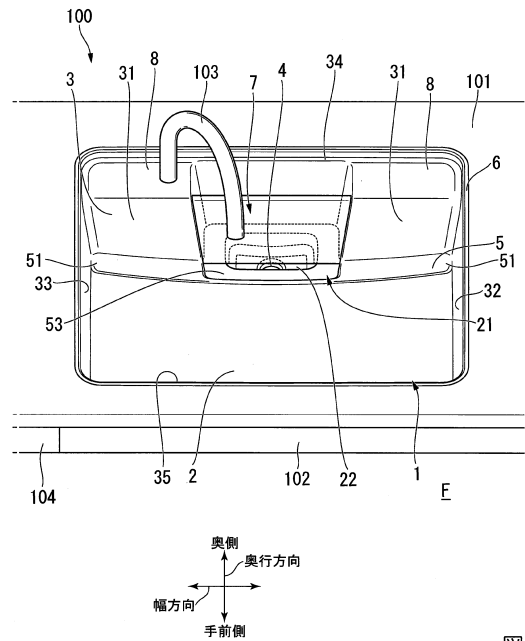
50

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

20

【図 3】

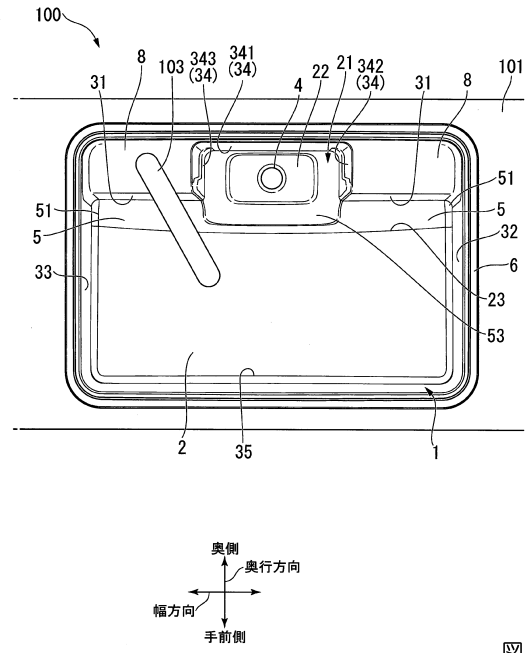


図 3

【図 4】

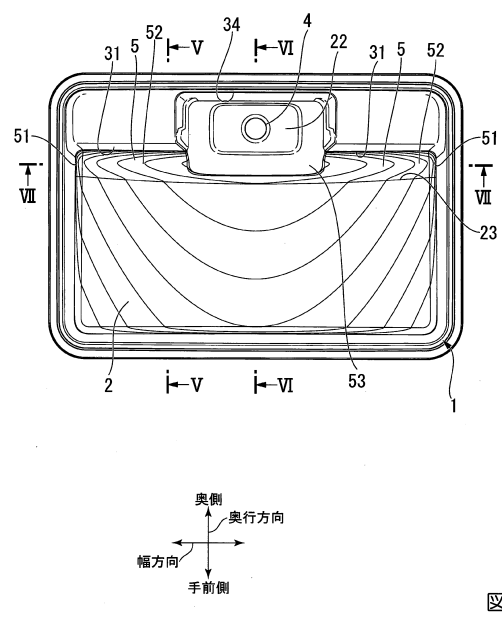


図 4

30

40

50

【図 5】

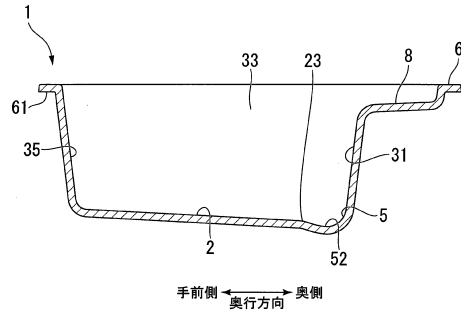


図 5

【図 6】

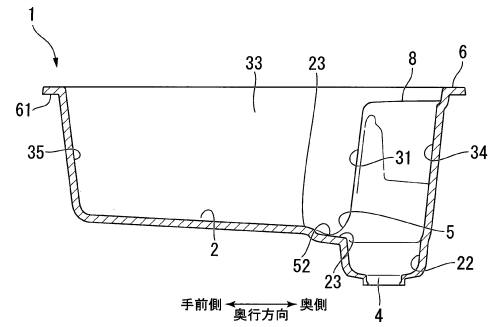


図 6

10

【図 7】

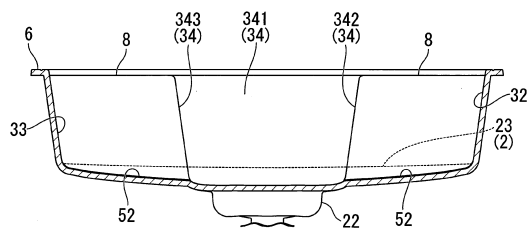


図 7

【図 8】

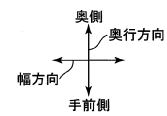
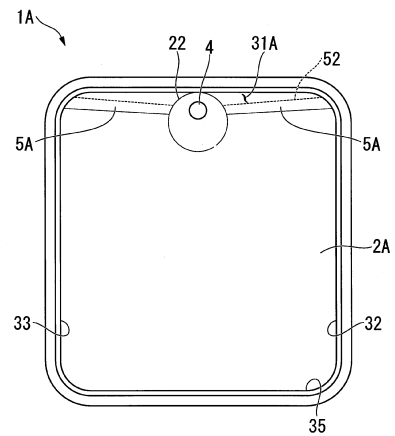


図 8

20

30

40

50

フロントページの続き

- (72)発明者 小川 裕也
東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式会社 L I X I L 内
- 審査官 七字 ひろみ
- (56)参考文献 意匠登録第 1 3 1 8 9 7 9 (J P , S)
特開 2 0 0 9 - 0 0 7 9 0 9 (J P , A)
特開 2 0 1 6 - 0 5 0 4 1 9 (J P , A)
特開 2 0 0 7 - 1 9 8 0 1 9 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
E 0 3 C 1 / 1 2 - 1 / 3 3